

小学校への滑らかな接続を目指す「幼小連携教育」

菊池 勇 希

せっかく1年生をもったので参加してみました。
小中連携だけでなく、幼保小連携もとても大事だと感じました。

小学校でできる幼保小連携

① 連携担当窓口の明確化 (うちの学校では、葛西先生)

市内の小学校や園で、連携担当者リストをつくっている市町村もあるそうです。

② 客観的な視点での引き継ぎ



理解力が心配です…。

どんな場面で問題があるのかわからない
園での効果的な手立てがわからない

具体的な姿で引き継ぐ!

園での手立ても聞く。



この子は大丈夫です!

園の環境的な要因 (先生や友達との関係
など) でできているだけかも…

環境が変わっても大丈夫

かという視点をもつ

幼児の発達評価シート「TASP」を、気になる子へのアセスメントとして利用している市町村もあるそうです。個人的には、判断基準が具体的なので活用できそうだと思います。

③ 幼稚園・保育園との交流

子どもの交流

○生活科での交流

- (3) 地域にかかわる活動
- (6) 身近なもので遊ぶ活動
- (8) 出来事を伝え合う活動
⇒小学校主体で計画

○社会科・総合での訪問

- 3年「町探検」
- 6年「キャリア」 など

先生方の交流

○参観日での交流

幼稚園の先生は、卒園した子どもたちがどのように成長しているのかが気になっているようです。

○幼稚園への見学

どんな指導をされているのか知っていますか?

学びの連携

○カリキュラムの交流

幼稚園での学びがどう小学校につながるのか?
幼稚園での日課を導入期に取り入れられないか?

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解

○スタートカリキュラム

今年度の1年生は、すっかり「スタートカリキュラム」を意識して実践をしてみました。それについては、後日どこかでお話しできればと思います。質問などあればぜひ菊池まで。